



新学期が始まって一週間が経ちました。

子どもたちにとって、我々スタッフにとってもワクワク・ドキドキのスタートです。

そして、4月14日の木曜日には、第22期のつぼみのおとこたちが仲間入りしました。

沢山の進級見たち、新しいおとこたちをやさしく迎えてくれました♡

■新しいバッジを胸にハリキッテの登園をして来る進級見たち。

「おほウゴサマス！」の「あいさつ意気揚々」だったのですが、自分のくつばこの所在に戸惑いはじめると、表情が一変です。

年長児になったから2階へ行くべき所、平気な顔してホールへ進み、気がついて引き返す子次から次でした。

そんな子どもたちのようすを

ニヤニヤしながら観ているスタッフたち、新しいおとこたちが玄関に入ってくると表情を一変して、バッジの色を確かめて対応しております。

■新入園のおとこたちにとっては、お事なす事の全てが「はじめての事はかり！」



自分のくつばこはどこにあるのか？

自分の教室はどこなのか？

自分の帽子とかバンを掛ける場所はどこなのか？

でも、だいじょうぶです！

たくさんスタッフたちが声をかけてくれるし、手を貸してくれます。

そして、クラスの2分の1が元つぼみ組のおとこたちです。

しばらくの間は、このおとこたちが全てのお手本も見本となって導いてくれます。

新採用のスタッフたちと、経験のあるスタッフたちと、この時期はワクワク・ドキドキのスタートなのです。

思考力を育てる
「なんだらう？」の言葉かけ

お茶の水女子大名誉教授
NHK「お母さんといっしょ」開発者
内田 伸子の安心子育てより

あなたのお子さんが初めて発した言葉はなんでしたか？ それまで「あー」「ぼぶぼぶ」と言っていたのに、「ママ」「ハイ」などと意味のわかることを言えるようになるとうれいですね。

そして、子どもが2歳半くらいになると「ママ、これはなに？」「どうしておうちでメダカなの？」と質問攻め。「これは鍋よ、ごはん作るの」「熱いから冷めるまで待ってね」など、簡単に答えられるような質問が多いのですが、幼稚園に入ると質問続きになると知れません。「ママ、どうして大人になれるの？」と聞かれたら、あなたはどう答えるでしょう。

今若いお母さんのほとんどがスマートフォンを持っており、わからないことはネットで調べるのが当たり前になっています。あなたもスマートフォンで調べて教えてきたものの、子どもの興味が多岐に変わっていて、調べた甲斐がなかったと思ふことがあるかも知れません。

子どもが「これはなに？」と質問してきた時には、子どもが自分で考える余地を残してみたいかがでしょうか。

これは「チヨチヨよ」「タンポポというお花よ」と答えるのは簡単ですが、時には子どもが自分で考えよう「なんだらう？ おうちの図鑑に載っているかな？」「このあいたのはスミレだ、たね。これは黄色いけど、しるべみぶよよ！」と問いかけてみてください。

「質問は未来を導く道筋」これは私が本に書いた言葉ですが、子どもに質問する大切さを知ってほしいです。疑問に文に対してすぐに正解を出してしまえば、子どもはそれ以上に興味が湧かなくなり、関心をそこで止まってしまう。

ママやパパ、周りの大人が「なんだらう？」「どうしてかな？」と質問することによって、子どもは自分の頭で考えます。そして、自分の力で答えを見つけることで、子どもの想像力が磨かれていくのです。興味が湧いて、質問が続いて困る時があるでしょう。でも根気強くつき合ってあげてください。

時にはママと一緒に、答えを見つける楽しさを味わってみては？